

北海学園大学人文学部プロデュース「人文学の挑戦」は、
本学部教員の研究成果を広く社会に還元するイベントです。どうぞお気軽にご参加ください。

第8回 人文学の挑戦

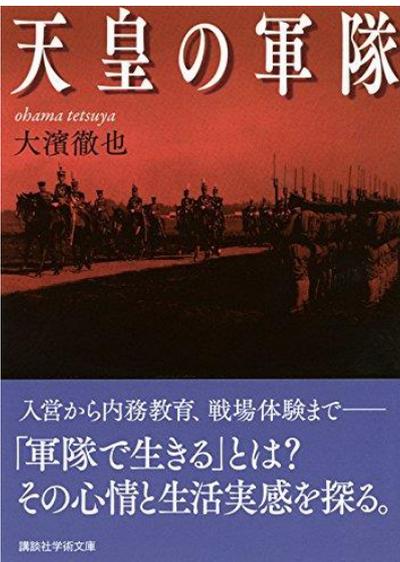
今こそ読みたい、『天皇の軍隊』

—— 著者の大濱徹也先生に聞く ——

講師

大濱 徹也 (おおはま・てつや) 筑波大学名誉教授・元北海学園大学教授

聞き手 郡司 淳 北海学園大学人文学部教授



この度、講談社学術文庫として復刊された『天皇の軍隊』(1978年初刊)は、兵士とされた民衆の場から、「官費の人生道場」「国民の学校」とも称された軍隊が日本国民の身心に刻印した世界を個別具体的に読み解いた作品です。時代を生きた兵士を描く作業は、兵士として生きねばならない人間の場に同伴するのみならず、遺された母や妻の心に共鳴することではじめて可能となります。この作法は、天下国家を論じる「大きな物語」に対峙し、裏街の哀歌に耳を傾け、暮らしの営みに根ざした「小さな物語」を描くことをめざしたものにほかなりません。この想いこそは明日の人文学を可能としましょう。

『天皇の軍隊』は、「皇軍」といわれた日本の軍隊が醸成した世界を日常卑近な場から問い質し、強権的な国家のあり方を歴史に位置づけた最初の試みです。敗戦後七十年という現在、私たちの日々は、「国家の大義」なるものに囚われ、ともしれば目の前に渦まいている闇に呑込まれがちです。それだけに、軍隊が日本国民の身心に刻みこんだ世界を解読した「小さな物語」をよりどころに、一個独立した己の世界をみきわめることが問われているのではないのでしょうか。

2015年12月19日[土] 14:00-15:30

紀伊國屋書店札幌本店 sapporo55ビル 1F
インナーガーデン

札幌市中央区北5条西5丁目7番地 ☎ 011-231-2131

参加無料

予約不要